	for your dream—	平成31年3月20日
	<h1>進路通信</h1> <p>平成30年度第11号</p>	<p>都立武蔵野北高等学校 進路部</p>

合格速報 3/19判明分



国公立大 前期のみ。 ()内は浪人で内数ではない。

東京工業1 東京芸術1 筑波2(1) 東京外国語1 東京学芸7(1) 首都大学東京12(1)
 東京海洋2(1) 千葉1 東京農工4(1) 埼玉8 電気通信1 横浜国立2(1) 山梨4
 都留文科2 横浜市立3 富山1 群馬1 京都1 大阪府立1 島根1 九州1
 北海道(2) 計57名 浪人を入れると66名

私立大 現役のみ(数字はのべ) 5名以上の大学のみ

青山学院9 大妻女子11 学習院9 北里10 杏林12 共立女子10 駒澤26
 工学院15 國学院8 実践女子6 芝浦工業23 昭和女子12 成城6 成蹊24
 専修10 大東文化5 玉川10 中央37 帝京5 東海7 東京経済9
 東京工科6 東京女子10 東京電機11 東京農業21 東京理科12 東洋65
 東京家政19 日本43 日本女子8 文教7 法政50 武蔵13 武蔵野30
 明治45 明治学院8 明星15 目白5 立教33 立正8 早稲田15

国公立は伸びたが、私大の入試厳格化は続いているようだ。

上記の合格速報を見てもわかる通り、国公立大は昨年とほぼ合格者数となった。理由としては、五教科七科目を頑張った人が多かったことや、センター試験の結果を見て適切どころへ出願したこと等が挙げられるが、詳細は後期の結果が出てから分析したい。

私大に関しては昨年と同様、思うようには合格者を出せなかった。早慶上理とGMARCHの3年間の数値を並べてみよう。

早慶上理／—昨年(62)、昨年(35)、今年(30)

GMARCH／—昨年(300)、昨年(190)、今年(184)

早慶上理、GMARCHともに漸減している。他校の正確な情報が入っていないので何とも言えないが、雑誌等のデータを見る限り、他校も私大に関しては苦戦しているようだ。

文科省の方針通り、合格者数を絞る動きは継続しており、私大の難化はこれからも続きそうだ。**心せよ、2年生!** 私大の詳細についても、すべての結果が出てから報告する。

進路NEWS

■2年生は第一志望校を決めたと思う。第一志望校が決まったら、**進路室から赤本を借りてどんな問題が出ているのか確認**しておこう。志望校の出題傾向を知ることが、受験の第一歩だ。3年生が卒業したので、積極的に進路室を利用してほしい。

■今年から本校では初めて春期講習を行うことになった。1年2年ともに8講座開講されるので、積極的に参加してほしい。

来年1年をどう過ごすか? 2~3年生編

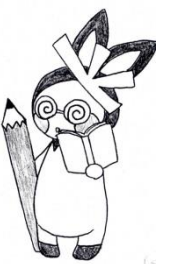
来年度、2年生は本格的な受験生に、1年生は学校の中核となる2年生となる。では、来年1年間をどう過ごすべきか。学習面に関して簡単にまとめてみる。

① 早めに志望を固め、目標に向けて突き進もう!

2年生はすでに「第一志望届」を提出してもらっているが、第一志望があいまいだと、勉強の方針を確立することができない。第一志望を固め、「絶対にここに行きたい!」という固い意志を持つことで、受験勉強を継続させる強いエネルギーが生み出せるのだ。

② あくまで授業を中心に勉強を!

3年になると、塾や予備校に通う人が増えてくるが、塾や予備校に全面的に頼り切るのは失敗のもと。予備校や塾は「まずは学校で基礎を固め、ハイレベルな実戦力・応用力は予備校で」・「苦手すぎて自分ではどうしようもない。基礎の基礎から塾でやりなおそう」・「カリキュラムの関係で必要な選択科目がすべては取れなかったため、取れなかった科目を予備校でカバーする」という明確な目的を持って、選択的に使うのが正しい使い方である。最後まで、あくまでも学校の授業が勉強の柱と心得て、日々の授業にしっかり取り組もう。



③ 模擬試験を徹底的に活用する

模擬試験は、スポーツで言えば「練習試合」である。校内でも何度か実施するが、それ以外にも予備校の模試に自分で申し込んで受験してほしい。(3年は10回の模試を経験しよう)。校内では実施しない(たとえば河合塾や駿台)の模試を受験すると、また違った傾向の問題に触れることになり、有意義な「練習試合」になるはずだ。

ただし、模試の結果に一喜一憂してはいけない。「**模試で本当に大事なのは終わった後の復習である**」ということ肝に銘じよう。では、その模試の復習をどのように行うべきか、以下にまとめてみる。

心得その1 模試の復習は3回やるべし!

まず1回目は、自己採点をかねて解答が配布されたら即やってみる。試験直後の問題の記憶が鮮明なうちに1度やっておくことが大事である。

2回目は、成績返却直後にやる。成績返却時に渡される成績表の中で気にすべきなのは大学の合否判定ではなく、“設問別”“分野別”の成績である。ここを見ることによって、自分の弱点を見つけることができ、学習の指針が見い出せる。

3回目は、また少し時間がたってからやってみよう。繰り返すことで自分の弱点を完全につぶすのだ。



心得その2 復習の方法を理解すべし!

- (1)まずは、できなかった問題について、解答解説を見ずに再度チャレンジしてみよう。
- (2)正解した問題についても、自信がなければ、一通り解答解説を読んで正解の導き方が正しかったか確認しよう。
- (3)万が一、すでに学習した範囲なのに手も足も出ないという場合は、教科書・ノート・参考書を引っ張り出してわかるまで勉強し直そう。
- (4)少し時間をおいて、チェックした問題に再度チャレンジしてみよう。
- (5)(1)~(4)を繰り返すことで、解けない問題をなくしていくべし。

心得その3 模試ノートを作るべし!

“模試で間違った問題こそ受験勉強の材料”と心得よう。その材料=間違えた問題・苦手な分野、自信のない分野を集めたノートを作り、折に触れて復習していけば弱点をつぶしていくことができる。

④ 勉強と行事・部活とを両立させる

行事を「やりきった」という充足感は、受験勉強をやり抜く原動力となる。ただし、大切なのは、「気持ちの切り替え」だ。特に3年の1学期は合格・不合格の差が実はここでついている、という大切な時期なのだ。

	6月	夏休み	10月	12月	1月
合格者	4.6	8.5	5.0	6.5	7.8
不合格者	2.4	5.0	3.8	5.3	7.0
差	2.2	3.5	1.2	1.2	0.8

(単位:時間)

上の表(河合塾のデータ)は、ある進学校で生徒の学習時間を追跡調査し、最終的な結果を踏まえて平均値を算出したものだ。受験直前期に近づくに従って合格者と不合格者との学習時間の差は縮まっているが、夏休みと1学期の時間差はかなり大きい。不合格者たちも直前期には頑張るのだが、追い込みの時期はみんなが頑張るので、差を詰められなかったことがわかる。つまり、夏休みはもちろんだが、1学期にどれだけしっかり貯金ができるかが受験の成否を左右するのだ(1学期約100日×2時間=200時間の差がついていることに注意)

閑話休題 偏差値39から東大に合格した生徒を動かした「教師の格言」(再掲)

学生時代の出会いが人生を変えた人も多いはず。

ある公立高校で入学時の偏差値が39の生徒がいたが、その生徒はなんと現役で東大に合格したという。

元々は問題児で、教師にも反発をくり返すような生徒だったとか。しかし、そこから現役で東大合格。

その裏には、教師の言った格言の存在があった。

「こんなこともできないあなたは、将来何の役に立つのですか？」

教師に叱られた時、腹立ちまぎれに「こんなことが将来何の役に立つんだ」と言った時に返された言葉。この言葉に納得して、将来のことを考えるようになる。



「将来のことを考えるのも大事だが、今なすべきことを全力で頑張る方が100倍大事」

受験に関して不安を感じている時に言われた言葉だとか。

「受験勉強の9割は社会に出てから役に立たないが、その役に立たないことですら覚えられないで、社会で役に立てるの？」

受験というのは学習内容の知識自体が重要なのではなく、学習のプロセスをしっかりこなす能力を身につけることが大切だということだ。

「1年のために一生を棒にふるか、一生のために1年を棒にふるか、どちらか選べ」

受験シーズンをどうすごすかで、一生が大きく左右される。今遊びたければ、一生を棒にふる覚悟で遊べ。一生を豊かに生きたいければ、今を棒に振る覚悟で学べとのこと。

この言葉で、本気で1年間を頑張ろうと思ったという。

「やって失敗してもそれほど後悔しないが、やらないで失敗すれば絶望するほど後悔する」

社会に出てから必ずしも成功するとは限らない。うまくいかなかった時、やることやって失敗したのであれば、後悔はさほどなく立ち上がれる。しかし、やることをやってないと、自信を持ってないので、ものすごく後悔する。

最後までやりきって、仮にうまくいなくても、後悔しないように頑張ろうと思ったとのこと。

こうした言葉に感化されて東大に合格したそうだ。

これらは、受験だけではなく、すべてに通じる含蓄のある言葉だと思う。